介護の世界

夕方　なにげなく玄関をみた

あきがその黒々としたはがきを取られ
たしぶりにすっきりしている

向の斜側が見える　ぼんやりながめていると
女性が手をふっている

だれだろう　と思ったがよくわからない

女性は「五ノ井ひろ」と言った

二年ぶりに五ノ井さんに　会えたのだ

彼女が今日で最後の日

私の手をにぎり　大粒の涙をこぼした

私の手はぬしよく　にぎられてしまった

それがわかれだった

会社の都合で　もう私の所へ来られなくなった

別れの少しまえ　彼女に住所をきいた

それは会社のきまりで

そうなのね　住所をおしえてはいけない

ルールがあるのだ

彼女はルールを守ったのだ

ここはなにという所だ　ヘルパーと私のように

世の中になっている中では　自由な人間関係は
ないのかも
まるで　刑務所のようだ
友情なんて　あってはいけないのだ
誰でもヘルパーとせわになる人間なのだ
身内、　外部者のみ人間関係がなりたつ
世界だ
その世界がうらやましい　とうらやましがる
操作
身になって　せわをしてくれる人もいるが
そこに情らきとなると　つらいものが
流れる
やってもらっている　見てやっている
なんの世界だ

2021
12/12

コクヨ　ケ-70　20×20